



京都の天の橋立を過ぎて、さらに丹後半島を進むと伊根の舟屋がある。昔朝ドラの舞台になったことがある。

一度見たかったので、3月の連休に京都からレンタカーで行ってみた。家の下のガレージのようなところから車ではなく、船ができる。

日本海は干満の差が少ない。南の対馬海峡、北の宗谷海峡、津軽海峡と狭い、そして水深が深い、ちょうど胃袋を縦に半分に切った感じだ。だから潮が太平洋のように流れないので、干満の

差が少ない。

更に伊根町は日本海側に有りながら、丹後半島の内側にあり、南に向いていて、波がほとんど来ない。だから車のように船を家の下に泊めることができる。

昔は半島沿いの道路もほとんど整備されていなくて、船が大事な交通手段だったようだ。

郷土料理のへしこ(サバの塩漬け)で地酒を飲み、帰りは京都への鯖街道に寄って帰ってきた。

社長の仕事 税理士 大場史郎

リーダーの条件

リーダーの条件とは変革を起こすことと人を育てることと言うのはLIXILグループ社長の藤森義明氏だ。彼の話私流に解釈すると次のとおりだ。

日々仕事に追われる社員は、わざわざ苦労してまで新しいことへチャレンジはしない。そうすると絶えず進歩する時代の流れの中で、陳腐化し、やがてとり残されてしまう。

長く繁栄する強い会社を作るためには、絶えず時代の変化にそった変革を起こすことが必要となる。

リーダーは会社の進むべき方向と具体的目標を立てなければならない。

学校の勉強では答えは一つだが、ビジネスでは答えは一つではない。

その中で、市場に成長性があり、会社の体力、職員の能力にあった方向を選ぶ。それはリーダーの最も大きな仕事だ。

当然、現状を変えるには従業員の反発はある。「今のままでも食べられるのに、なぜ変化が必要なのか。」現状と同じことを続けていたら、やがて減びてしまうことを社員が納得するまでミーティングをすることが必要だ。

様々なことが急激に変わっていく中、どんな企業や組織も、解決しなければならない課題や問題を抱

えている。

変化を起こし、新しいものを想像していくために必要なのは、チャレンジする心だ。

問題の解決方法が分かっている、既得権やしがらみにとらわれていると、行動に繋がらない。実際、問題を先送りして逃げている経営者は少なくない。

挑戦する気持ちが萎えたら、リーダーを降りる時だ。

中小企業の経営者の我々は、なかなかリーダーとしての仕事ができない。日々の仕事に追われ、目の前のハエを追うことにばかり、目を奪われているからだ。

そこから脱出するためには、社員を育てることが必要だ。社員にできることは社員にさせる。現場で起こることに最善の方法を選択できるように、日々トレーニングをする必要がある。機械は決まった能力のことしかできないが、人は個人差はあっても成長することができる。成長すれば、それは本人のため、会社や組織のためになる。

リーダーがいくら仕事ができると言っても、人10人の仕事はできない。それより10人の能力をいかにフルに発揮させるかを目指す方がはるかに賢明な選択だ。